

地域の水資源を守るため、地元農家の米作りを支援

生産サイトでの地域との協同

富士フィルムグループのディスプレイ用フィルムを生産している富士フィルム九州（熊本県菊池郡菊陽町）では、地域の方々と地元の豊かな生活環境を守るべく、人的交流や自然環境保全に積極的に取り組んできました。その一環として2010年から、地下水涵養（かんよう）を目的に、地元農家の米作りを支援する活動をしています。

富士フィルム九州の所在地である菊陽町、熊本市を含めた阿蘇山に連なる11市町村は、約100万人分の水道水資源を地下水で賄う、日本で唯一、世界でも稀な水の都です。

菊陽町に広がる白川中流域の水田は、他の地域に比べ5倍～10倍も水が浸透するという特徴を持っており、この水田から大量の水が地下に供給されます。しかし、近年、都市開発による宅地化や農家の後継者不足により、水田の面積は年々減少しており、地下水位が下がった大きな要因とされています。

富士フィルム九州は、この地域で事業活動を行う企業の責務として、地元農家の協力を得ながら、菊陽町の水田を利用した地下水涵養を実施し、熊本県の宝である地下水の保全に努めています。

また、従業員やその家族が田植え、稲刈りに参加して地下水涵養や自然環境保全の大切さを学ぶことで、社内における環境意識向上にも役立っています。



従業員と家族による田植えの様子



従業員と家族による稲刈りの様子